

7. 自由意見

最後に このたびのアンケート調査に対するご感想、または三重県政に対するご意見などございましたら、ご自由にお書き下さい。今後の参考にさせていただきます。

今回の調査で、上記の質問を設定して回答者の方にご意見をお聞きしたところ、計 1,713 人の方から回答が得られ、延べ 1,878 件の意見を下記の通り大きく 2 つに整理しました。

(1) みえ県民意識調査についての意見 (266 件)

いただいたご意見の中には、内容を同じくするご意見もありますので、ご意見をいくつかの類型に分類し、主な意見として集約しました。

アンケートの目的 (103 件)

- ・ どのような目的でこのアンケートを実施しているのかがわかりにくい。
- ・ アンケートを実施し県民の声を聞くことは大切だと思う。これからも継続して行ってほしい。
- ・ アンケート調査の実施自体が税金の無駄遣いだと思う。

アンケートの実施方法 (32 件)

- ・ アンケートの協力者に対し、粗品進呈等あれば、より多くの情報が集まり精度向上につながると思う。
- ・ 封筒 (返信用封筒) を大きいのにしてほしい。
- ・ アンケート調査を書面で実施するより、市町単位でヒアリングや対話を行うほうがより県民の声が聞けるのではないか。

調査票の構成 (44 件)

- ・ アンケートの質問はわかりやすく答えやすかった。
- ・ このアンケートを通して、県政への意識や、日ごろの生活などを振り返ることができた。
- ・ 設問の項目が多すぎると思う。もう少し答えやすい設問量、内容にしてほしい。
- ・ 職業や年齢、また生活スタイルなどによっては、答えにくい設問があったので考慮してほしい。

対象者（数）の抽出方法（23件）

- ・ アンケート対象者は、無作為ということだが、どのような名簿からどのように選ばれているのか。
- ・ 今まで何度も送られてきているので、一度対象者になった人は外すなどの配慮をしてはどうか。
- ・ 無作為とはいえ、高齢すぎて十分な回答ができないので、年齢制限などをもっと若い人を中心にしてはどうか。

アンケート結果の公表（24件）

- ・ アンケート調査結果を無駄にせず、三重県をより良くしていく為に活かして欲しい。
- ・ アンケート調査結果をどのように活用していくかを明確にしてほしい。

アンケート結果の活用方法（40件）

- ・ 集計結果をぜひ知りたいが、どのように知ることができるのか。
- ・ ホームページで集計結果を公表する予定とあるが、インターネットを利用していない家もあるので、配慮してほしい。
- ・ 集計結果を「県政だよりみえ」や市町の広報誌、地域の番組などで紹介するなど、誰もが知ることができるようにしてほしい。

（2）その他の意見（1,612件）

さまざまな分野に対するご意見も幅広くいただきました。

いただいたご意見につきましては、関係部署に伝達し、諸施策の今後の展開を検討するための参考資料として活用いたします。なお、参考までに「みえ県民力ビジョン」における16の政策別およびその他に分類した内訳は次の通りです。

【みえ県民力ビジョン(974件)】

01.危機管理	124件	09.スポーツの推進	19件
02.命を守る	95件	10.地域との連携	37件
03.暮らしを守る	33件	11.文化と学び	9件
04.共生の福祉社会	84件	12.農林水産業	22件
05.環境を守る持続可能な社会	49件	13.強じんて多様な産業	42件
06.人権の尊重と多様性を認め合う社会	6件	14.雇用の確保	82件
07.教育の充実	43件	15.世界に開かれた三重	153件
08.子どもの育ちと子育て	43件	16.安心と活力を生み出す基盤	133件

【その他(638件)】

01.知事に対して	147件	03.行政全般・その他について	444件
02.幸福感について	47件		

(参考) 標本誤差と調査の精度

母集団から一部の標本を抽出して調査を行い、その結果からもとの全体の値を推定するのが標本調査であるが、この際に生ずる“標本調査の結果”と“全数調査の結果”との差が標本誤差である。標本誤差の幅は、サンプル数(n)、および回答率(P)によって決定される。

標本誤差 $E = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}}$	E : 標本誤差 n : サンプル数(n) P : 回答率(%)
--------------------------------------------	--------------------------------------

次表は、上式に n と P の値を代入して標本誤差を求め、作成したものである。

標本誤差の早見表

回答の比率(p) サンプル数(n)	5% 又は 95%	10% 又は 90%	15% 又は 85%	20% 又は 80%	25% 又は 75%	30% 又は 70%	35% 又は 65%	40% 又は 60%	45% 又は 55%	50%
10,000	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
5,710	0.6	0.8	0.9	1.1	1.1	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3
5,000	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
1,000	1.4	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
500	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
100	4.4	6.0	7.1	8.0	8.7	9.2	9.5	9.8	9.9	10.0

回答の比率(p)とは、ある選択肢が選ばれる割合であり、その割合が50%のとき標準誤差は最大となる。

アンケート調査を行う場合、許容できる標本誤差の範囲は3%程度の範囲までとされている。

仮に、ある設問のある選択肢が選ばれる割合(回答の比率)が50%の場合、信頼度95%、標準誤差±3%(同じ調査を異なる調査対象で行った場合、100回中95回までは-3%~+3%の間に収まること)では、1,111件のサンプル数が必要であり、同様に標本誤差±2%では2,500件のサンプル数が必要であるという考え方となる。

今回の調査では、5,710件の有効回答数が得られており、三重県全体の意見を推定するために十分な精度を得ていると考えられる。(次式及び「サンプル数決定の早見表」参照)

$$\text{サンプル数 } n = \left(\frac{k}{E}\right)^2 \times P \times (100 - P) \quad (1) \quad 1$$

n : サンプル数 P : 回答の比率(%) E : 標本誤差 k : 信頼度係数 2

1 : 一般的に人口1万人以上を目安に無限母集団と捉えるため、本調査においては、無限母集団のサンプル数を決定する式(1)を使用した。

2 : 信頼度係数は、正規分布表から求められ、信頼度95%の場合は1.96であるであるが、近似値として2を用いている。

サンプル数決定の早見表(信頼度 95%)

標本誤差 回答の比率(%)	± 1%	± 2%	± 3%	± 4%	± 5%
1、99	396				
5、95	1,900	475	211	119	
10、90	3,600	900	400	225	144
20、80	6,400	1,600	711	400	256
30、70	8,400	2,100	933	525	336
40、60	9,600	2,400	1,067	600	384
50、50	10,000	2,500	1,111	625	400